

市島地域市立小学校統合準備委員会
第8回竹田・前山地域部会 次第

日時：R4. 8. 30 (火)

場所：ライフピアいちじま 研修室

1 開 会

2 部会長あいさつ

3 会議記録の確認

4 協議事項

①校名の公募方法について

②統合後のアフタースクールの在り方について

5 その他

6 次回部会の日程について

・日 時 月 日 () 19時30分～

・場 所 ライフピアいちじま研修室

7 閉 会

会議・協議・相談等 記録簿

令和4年7月27日

- 会議名 丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会
第7回竹田・前山地域部会
- 日時 令和4年7月26日（火）19:30～21:00
- 場所 ライフピアいちじま
- 出席者 委員：青木修、余田義信、笹倉博、山邊敦、荻野幸広、藤田泰生、溝部康
祐、余田亜美、足立和宏、吉見典彦、余田淳子
[事務局]
教育総務課：足立次長、船越係長、小田、畑中
学校教育課：池内次長
[担当課]
ふるさと定住促進課：藤浦課長、足立係長

●内 容

1 統合後の通学支援について

前回の協議で要望があった専用スクールバスと路線バスの比較について事務局から資料で説明し、統合後の通学支援の方法について委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・前山地域で地区懇談会を開催した際に意見徴収を行い出した意見としては、「路線バスは社会性が身に着くが安全面が心配」「今のご時世、どんな人が乗ってくるのかわからない。」「実際にバスを走らせ、地域の方にも乗ってもらってシミュレーションをしてほしい。」といった意見があった。
- ・路線バス車両を実際に走らせてのシミュレーションは可能か。
→実際に走行する車両を借り上げて実施することは可能である。（ふるさと定住促進課）
- ・前山地区自治振興会の会議で通学のために路線バスを運行することについて話し合ったが、誰が乗ってくるかわからないので、安全性を確保するためには専用スクールバスのほうがいいという意見が多かった。
- ・鴨庄地域のスクールバスは塚原地域まで運行するのに、前山地域ではなぜ徳尾や鴨阪まで入れないのか。実際に運行するなどしてもう一回検討してほしい。
→専用スクールバスの場合でも鴨庄地域と同様にスクールバスを試走し乗り入れが可能か検討することも可能である。（事務局）
- ・こども園で意見を徴収した中で、「自分の子どもは竹田地域だが、近所に子どもが少なく、長距離を通学している。今後一人で通学する可能性もあるため不安に感じているのでスクールバスやタクシー通学を検討してほしい。」「路線バスの場合は安下がバス停になっているので、竹田地域でも安下の児童はバスに乗れるようにしてほしい。」「竹田地区・前山地区の括りにとられることなく、子どもたちが安全に登校できる方法を考えてほしい。」「議論の余地があるのであれば、防犯面や熱中症対策で竹田地域の児童にもバスを出して欲しい。」「前山地域はバスで竹田地域は徒歩なのは公平性にも欠けるし、児童の体力にも差が出てしまう。」という意見があった。
- ・前山地域でも基準の4km未満の地域もあるので考え方の整理はしてほしい。
- ・竹田小学校の児童数は昔は多かったが、現在は児童数が少ない中で通学している児童もいるので、今までどおりと同じだからバスに乗れないで終わらせるのではなく、後でしっかり考えてほしい。

- ・比較表で見ると明らかに専用スクールバスが選ばれるように思う。路線バスを運行することに社会的な意義があると感じていたが、自治会など地域の方も専用スクールバスがよいという考え方であれば、専用スクールバスでよいのではないか。
- ・路線バスを実際に試走することはできるが、どうするか。(事務局)
- 地域側が路線バスを特に望んでいないなら、無理に実施する必要はないと思う。
- 自治会で話合った中では、便数が少ないこと、市島の中心部に行けないことからあまり利便性がないという意見があった。
- 今回は学校の統合に合わせて通学で使える路線バスの運行を提案しているが、その後も地域の中でその路線バスをどう活用できるかの検討をすることが大切で、一定の需要が見込めるのであれば次の展開もあり得ると考えていただき、市としても検討をしていきたいと考えている。(ふるさと定住促進課)
- 市がまちの発展なども考えて路線バスを運行したいという気持ちはわかるが、前山地域の住民は統合に関して苦渋の決断でここまで来ている。その中で前山地域の方の不安を置いておいて路線バスを運行することはできないと思う。
- ・竹田小学校 PTA で話し合いをしたが、「前山地域の保護者の立場で考えると専用スクールバスのほうがいい。」「(路線バスの場合)不審者が乗車してきた場合どう対処するのが心配。」「便数が今後増える可能性があるとしてもまだ不透明で地域活性化につながらないのではないか。」という意見があった。
- ・学校側から見ても専用スクールバスのほうがいいように思うが、専用スクールバスを選択した場合、路線バスの運行はなくなるのか。
- 次の統合の段階で児童の大量輸送の需要が出てきた場合などは運行の可能性もあるが、市島地域では JR の運行等もあり、交通空白地帯ではないので、現段階では可能性は限りなく低いと考えている。(ふるさと定住促進課)

【決定事項】

竹田小学校と前山小学校の統合における通学支援は専用スクールバスを運行することで今後協議を進める。

2 校名について

山南地域の統合中学校の校名公募の例を参考資料として事務局より説明し、統合後の校名の決め方について委員の意見を伺った。

【意見等】

- ・竹田小学校 PTA で校名について話し合いをした中では、「前山小学校の校名を残したい気持ちはわかるが、実際に通学する児童は今後新しく入学する児童なので問題は生じないのではないか。」「名前を変えると費用や手間もかかるので、その予算を施設改修に使用してほしい。」という意見があった。
- ・前山小学校の地区懇談会では「竹田と前山のどちらかの漢字を使用してほしい。」「全く違う校名にしてほしい。」「校名よりももっと大事なことがある。」「校名ではなく他のところで児童にお金を使ってほしい。」という意見があった。具体的な候補としては、「竹前小学校」「あいいく小学校」「市島小学校」「竹田小学校」「竹山小学校」「竹田・前山小学校」が出た。数としては「竹山小学校」を希望する人が多かった。
- ・お互いの校名を使用して「竹山小学校」がいいと感じている。
- 年配の方はそのような意見が多いと思うが改めて地域の幅広い意見を集め、皆に納得してもらうために公募するのがいいのではないか
- ・校名を変えた場合の費用はどの程度生じるのか。費用面も考慮する必要があるのではないか。
- 高いものだと校旗や体育館の緞帳などがある。校歌の作曲料や公募で選ばれた方の謝礼

金なども発生する。(事務局)

- ・山南の統合中学校の校名募集時と同じように校名に込めた思いなどを記入いただいて、それを大事に考えていくことが大切だと思う。
- ・実際に小学校に通学している児童を対象に公募をするのがいいと思う。
- ・公募した場合も、一番公募数が多かった校名が採用される可能性が非常に高いため、それを防ぐために、公募数を伏せて委員で投票するなどの形をとってほしい。

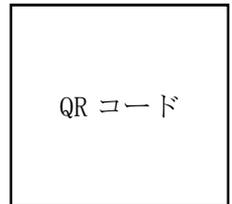
【決定事項】

統合後の校名は公募を行い決定する。選考の方法についても次回協議する。

- ・次回以降日程 ○令和4年月8月30日(火)19時30分～
ライフピアいちじま

竹田・前山統合小学校「校名」募集要項（案）

- 1 募集目的 竹田小学校と前山小学校の統合に伴い、令和6年4月に開校する新しい丹波市立小学校の「校名」を募集します。
- 2 募集期間 令和4年9月〇日（〇）～11月〇日（〇）**必着**
- 3 応募対象者 市内在住者・市内の小中学校を卒業した方
- 4 応募条件 漢字、ひらがな、カタカナを使用してください。
- 5 応募点数 お一人につき1点
- 6 応募方法 裏面の応募用紙に候補校名・校名の意味や解説・応募者氏名を記入のうえ、①郵送、②ファクシミリ、③電子メール、④直接持参による提出もしくは下記の応募用紙が備え付けてある場所に提出してください。
（丹波市役所・各支所、丹波市教育委員会、竹田小学校、前山小学校、吉見小学校、鴨庄小学校、三輪小学校、市島中学校）また、丹波市ホームページからダウンロードすることもできます。
HPアドレス <https://www.city.tamba.lg.jp/>
右のQRコードを読み込み、携帯電話などから応募することもできます。
- 7 応募先 (問合せ先) 〒669-3198 丹波市山南町谷川 1110 番地
丹波市教育委員会事務局 教育部教育総務課
TEL 0795-70-0810 Fax 0795-70-0814
E-mail kyouiku-soumu@city.tamba.lg.jp
- 8 その他 決定した校名の著作権は、丹波市教育委員会に帰属するものとします。
必ずしも応募数の多い候補校名を校名案として決定するものではありません。



竹田・前山統合小学校「校名」応募用紙（案）

ふりがな	
候補校名	
校名に込めた 想いや意味	
応募者	氏 名 住 所 連絡先

竹田・前山統合小学校「校名」選考要領（案）

（趣旨）

- 1 この要領は、竹田・前山統合小学校「校名」募集要項により応募された候補校名の中から、校名を選考するため、必要な事項を定める。

（選考基準）

- 2 選考基準は、次のとおりとする。
 - （1） 竹田小学校と前山小学校の統合により開校する新しい小学校（以下「統合小学校」という。）にふさわしい名称であること。
 - （2） 漢字、ひらがな、カタカナの名称であること。

（選考方法）

- 3 選考は、第1次選考及び最終選考により行い、その手順は次のとおりとする。ただし、選考を進める中で、選考方法に疑義が生じたときは、委員の合議により選考方法を決定するものとする。
 - （1） 校名を選考は、丹波市市島地域市立小学校統合準備委員会の竹田・前山地域部会（以下「地域部会」という。）に所属する委員（以下「地域部会員」という。）の投票により決定する。
 - （2） 第1次選考
 - ① 第1次選考では、応募のあった候補校名の中から、最終選考の対象となる5校名を地域部会で選考する。
 - ② 各地域部会員は、全候補校名の中から選考基準に合う校名最高20校名に投票し、投票の結果、6票以上集まった上位5校名を最終選考の対象とする。
 - ③ 6票以上集まった校名が5校名を超えるときは、同票校名の中から最も選考基準に合う校名に投票し、得票数の多い順に合計5校名になるように選考する。
 - ④ 6票以上集まった校名が5校名に満たないときは、1票、2票、3票、4票及び5票集まった校名の中から最も選考基準に合う校名に投票し、投票の結果、6票以上集まった上位5校名を第2次選考の対象とする。
 - ⑤③及び④の1回の投票数については、随時、地域部会で決定するものとする。
 - （3） 最終選考
 - ① 最終選考では、第1次選考校名5校名の中から、1校名を地域部会で選考する。
 - ② 各地域部会員は、5校名の中から選考基準に合う校名1校名に投票し、投票の結果、6票以上の得票があった校名を新小学校の校名案とする。
 - ③ 6票以上集まった校名がないときは、得票数の上位2校名を対象に1校名に投票し、

- 6票以上の得票のあった校名を統合小学校の校名案とする。
- (4) この要領に定めのない事項、その他疑義を生じた事項について必要があるときは、地域部会で協議して定めるものとする。

竹田・前山統合小学校「校名」募集 調整事項

【公募方法】

事 項	備 考
募集期間	<ul style="list-style-type: none"> ・年内に全体会で校名の決定について承認を得る必要があるため、統合準備委員会（9月中旬）終了後～11月中旬ごろの期間で実施してはどうか。 ※山南地域統合中学校の場合は2ヶ月間実施
応募対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・全国公募とするか、募集範囲を決めるか(市内在住者、卒業生、市島町住民のみ、竹田小・前山小校区住民のみ等)。 ※山南地域統合中学校の場合は市内在住者・市内小中学校を卒業した方
応募可能数	<ul style="list-style-type: none"> 応募可能数の上限を設けるかどうか。 ※山南地域統合中学校の場合は一人につき1点

【選考方法】

事 項	内 容
選考方法	<ul style="list-style-type: none"> ・投票で決定 ・地域部会内の話し合いで決定 ※山南地域統合中学校の場合は投票で決定
選考の際の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・応募数はわからないように伏せて選考を実施する(前回地域部会意見)

【スケジュール案】

時 期	内 容
9月中旬	統合準備委員会全体会で校名の公募実施について承認
9月中下旬～11月中旬	校名募集期間
11月下旬～12月上旬	竹田・前山地域部会で選考、決定
12月中旬	統合準備委員会全体会で校名を承認